



その年の「終見(しゅうけん)」を記録してゆこう

2019年5月号で「その年の「初見」を記録してゆこう」と書きました(詳しくはバックナンバーご覧ください)
今回はその逆、「終見(しゅうけん)」、最後に確認した日の記録です。

「初見」同様、毎年記録してゆくと自分だけの「生き物カレンダー」ができます。

■最後は難しい・・・昨日までいなかったものがある「初見」、特によく通る声で囀る野鳥の「初鳴き」は比較的気づきやすいです。

しかし「終見」はなかなか気づきにくい。鳥でいえば、今日はたまたまいないだけか、もういなくなったのかをすぐには判断できないからです。

旭山では、「終見」が近づくと、見られたか否かを毎日記録し、5日見られない日が続いて再び見られなくなった場合、最後に記録した日を「終見日」としています。



メジロ 10月19日撮影



ニホンカナヘビ 10月30日

■「イレギュラー」もある・・・例えばメジロ、通常4月から11月までいる夏鳥ですが、2月の観察例もあります。しかしこうした場合はあくまでも例外として記録しないと、本質を見誤ることにかなりかねないので注意が必要です。「イレギュラー」の場合はたいてい1羽か少ない数で1日から数日しか観察されません。

■ときには渡らないことも・・・夏鳥のイカルはかつて1度だけ数羽が越冬したことがあります。その年は冬の間も餌に困らなかったのでしょう。カワラヒワもありましたが、この場合は継続的に見られるので「イレギュラー」ともまた違います。

■鳥以外の「終見」・・・両生・爬虫類や一部の蝶やハチのように冬眠するものと、以下に取り上げる昆虫のように成虫が死んでしまっただけで見られなくなるものがあります。

●センダイムシクイ＝毎年お盆過ぎに南に渡りますが、渡る直前は「チヨチヨビー」と賑やかに鳴くので、いなくなったことが比較的分かりやすい鳥です。今年の「終見日」は8月24日でした。

●キビタキ＝今年の「終見日」は9月29日で平年並みでした。

●ウグイス＝11月3日が「終見」でした。

●メジロ＝11月7日にはまだいました。例年より遅く、今年の「終見」はまだ確定していません。

●ニホンカナヘビ＝「初見」は例年4月下旬。今年の「終見」は10月19日でした。

●アキアカネ＝今年は11月6日が「終見」でした。

●ミカドフキバッタ＝11月7日が「終見」でした。



アキアカネ 11月2日



ミカドフキバッタ 11月7日

レストハウスだより 2020年11月

今年のレストハウスは、6月からのオープンで5ヶ月余の短いご利用期間となりました。

新型コロナの感染対策を図り消毒も施しつつ、ご利用の皆様に気兼ねなくお越しいただく準備は日々して参りました。

短く感じられた秋でした。雨模様も有ってか、肌感覚でついて行けない気温の下降もあり日に日に木々の色づきも濃くなり見上げれば山容はすっかり秋深し。来園者は家族連れや介護施設の方々が増えて、つかの間の暖気の中景観を楽しまれていました。

11月の入ると園内は落ち葉が敷き詰められ、木々の枝がすっかり目立ち始めています。

当レストハウスも、3日文化の日を以て営業を終了いたしました。例年通りとはならなかった今年でしたが、オリンピックイヤーの来年にはコロナ禍解消の兆しが見えて居る事を期待したいと思います。

今期のレストハウスご利用に感謝致します。有難うございました。



旭山野鳥メモ②⑩ ヒレンジャク

ヒレンジャク Japanese Waxwings *Bombycilla japonica* スズメ目レンジャク科

冬鳥。旭山では10月から1月中旬まで滞在、春に短期間立ち寄る。
ヒヨドリより一回り小さい。頭に冠羽。目に黒い帯。尾羽の先が緋色。

か細い鈴のような声で「チリチリー」と鳴くが、囀りはしないらしい。

レンジャクは英語で"Waxwings"、翼に赤い蠟状の物質(wax)でできた部分があることによるが、ヒレンジャクにはそれがない。つまりヒレンジャクは英名と実物が一致しない。だが奇妙なことに同じ部分の羽が赤くなっているのだが、進化したのかもしれない。

また英名に"Japanese"学名に"japonica"とあるが日本固有種ではない。ヒレンジャクは世界でも極東のみに生息し、江戸時代にこの鳥の標本が採取されたのが日本だったということで、同様に名付けられた鳥は他にもいる。

旭山の不思議のひとつ。ヒレンジャクは図鑑やネットで「西日本に多く北海道ではあまり見られない」との記述に接するが、旭山では毎年見られ、しかも東日本に多いキレンジャクの方が旭山では観察機会が少ない。そして、北海道では春先に平地でよく見られるという情報もあるが、旭山では春は少ない。

こうした「ホットスポット」的な場所は旭山だけではないだろうが、鳥の世界にもいろいろな事情がありそう。



11月の野鳥トピックス

野鳥についての詳しい情報はホームページの野鳥情報をご覧ください。森の家までおたずねください。

☆ミヤマホオジロ＝この秋はまだ確かな観察情報はありません。これからか？

★ヒレンジャク＝10月26日今年初認、昨年は10月29日でした。

★イスカ＝10月下旬から声を聞いていますが観察機会は少ないです。

★ベニヒワ＝ときどき群れで上空を飛んでいます観察機会は少ないです。

★マヒワ＝11月に入り10羽以上の群れで見られるようになりました。

★ウソ＝11月に入り10羽以上の群れで見られるようになりました。

★ツグミ＝上空を飛んでいます近くで観察する機会はまだまだ少ないです。

★クマゲラ＝10月も園内でしばしば観察されていました。

★ヤマゲラ＝今年はこの時期もよく観察されています。★キバシリ＝今年はまだ観察機会は少なめです。↑

★カケス(亜種ミヤマカケス)＝今年3羽がいついていつでも見られています。賑やかで楽しい鳥です。

★シマエナガ＝今は森の家周辺で日に何度か見られ、園内他の場所でも観察情報は多いです。



2020年、旭山紅葉ダイジェスト



赤から緑のグラデーション 10/16

新桜並木 10/18

旭山いちきれいなヤマモミジ 10/27

今年の紅葉、色づき始めが遅く最初のうちはあまりよくないと言われていましたが、中旬以降急速に色づき、終わってるとやはり今年もきれいで見ごたえがあり、紅葉散策を存分に楽しむことができました。



公式サイト

「アカゲラ通信」 第85号 2020(令和2)年11月7日発行

発行:(公財) 札幌市公園緑化協会 旭山記念公園管理事務所

住所:〒064-0943 北海道札幌市中央区界川4丁目

連絡先:電話 011-200-0311(土・日・祝日10時~16時) FAX 011-200-0351

<http://www.sapporo-park.or.jp/asahi-yama/>